

考古学専攻分野科目

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	曜日・講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
考古学特論Ⅰ	人類の進化と考古学	2	佐野 勝宏	前期 月曜日 2講時	
考古学特論Ⅱ	考古学の方法と実践	2	佐野 勝宏	後期 月曜日 2講時	
考古学特論Ⅲ	先史文化の考古学	2	菅野 智則	後期 木曜日 4講時	
考古学特論Ⅳ	狩猟採集社会の考古学	2	中沢 祐一	後期集中 その他 連講	
考古学研究演習Ⅰ	考古学研究史	2	鹿又 喜隆	前期 金曜日 4講時	
考古学研究演習Ⅱ	考古学の方法と理論	2	鹿又 喜隆	後期 金曜日 4講時	
考古学研究実習Ⅰ	考古学の調査と資料分析(1)	2	鹿又 喜隆	前期 水曜日 3講時 前期 水曜日 4講時	
考古学研究実習Ⅱ	考古学の調査と資料分析(2)	2	鹿又 喜隆	後期 水曜日 3講時 後期 水曜日 4講時	

科目名：考古学特論 I / Archaeology (Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期 月曜日 2 講時

Semester：1 学期 単位数：2

担当教員：佐野 勝宏

コード：LM11203, 科目ナンバリング：LJS-HIS610J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：人類の進化と考古学
2. Course Title (授業題目)：Archaeology and Human Evolution
3. 授業の目的と概要：この授業では、考古文化の発達と人類進化の関係について学ぶ。人類の各進化段階で起きた、認知、行動、文化、社会の発達について学び、人類の生物学的な進化と文化的発達の意味を理解する。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In this course, the correlation between the development of archaeological cultures and the human evolution are explained. Students better understand the significance of the biological evolution of humans and cultural development by learning the advances in cognition, behaviors, cultures and societies corresponding to the human evolution.
5. 学習の到達目標：人類の進化史と考古文化の発達史の概要を把握し、考古文化の発達に関する進化論的な意義についての理解を深める。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：Students are supposed to learn the basis of the human evolution and the development of archaeological cultures so that they can better understand the evolutionary significance of the advances in archaeological cultures.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. ガイダンス
 2. 人類の進化史
 3. 道具の出現と発達
 - 4-5. 火の利用の起源
 6. 原人・旧人の出現と拡散
 7. ネアンデルタール人
 - 8-9. DNA 研究からみた進化史
 10. 旧人・新人の交替劇
 11. 狩猟技術の発達史
 - 12-13. 旧石器時代の芸術
 14. 新石器文化の拡散と受容
 15. 家畜化の歴史
8. 成績評価方法：

レポート [70%]・出席 [30%]
9. 教科書および参考書：

教科書は使用せず、授業中に資料を配付する。適宜、参考文献を紹介する。
10. 授業時間外学習：特に興味がある内容に関して、各自参考文献等で理解を深める。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：考古学特論Ⅱ／ Archaeology(Advanced Lecture)Ⅱ

曜日・講時：後期 月曜日 2講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：佐野 勝宏

コード：LM21203, 科目ナンバリング：LJS-HIS611J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：考古学の方法と実践

2. Course Title (授業題目)：Archaeological Method and Practice

3. 授業の目的と概要：考古学の研究は、様々な分析方法を用いて行われる。この授業では、その分析方法と具体的な実践の仕方について学ぶ。いくつかの分析方法は、授業中に受講者が実際に取り組み実践する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Archaeological studies are practiced using multiple analytical methods. In this course, students understand the analytical methods and its procedures. Students also practice some important analytical methods.

5. 学習の到達目標：考古学で行われる様々な分析方法について学び、各分析方法がどのように考古学研究に活かされ実践されているのか理解する。また、いくつかの分析方法を実践することで、そのやり方を覚える。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students are supposed to learn diverse analytical methods and to better understand how the analytical methods are practiced for archaeological studies. Students learn the procedures by practicing some analytical methods themselves.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス

2-5. 実験考古学の方法と実践

6-9. 3D 考古学の方法と実践

10-13. GIS 考古学の方法と実践

14. 暦年較正の方法と実践

15. 遺跡形成研究

8. 成績評価方法：

レポート [30%]・課題 [40%]・出席 [30%]

9. 教科書および参考書：

教科書は使用せず、授業中に資料を配付する。適宜、参考文献を紹介する。

10. 授業時間外学習：特に興味がある内容に関して、各自参考文献等で理解を深める。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：考古学特論Ⅲ／ Archaeology(Advanced Lecture) III

曜日・講時：後期 木曜日 4 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：菅野 智則

コード：LM24402, 科目ナンバリング：LJS-HIS612J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：先史文化の考古学
2. Course Title (授業題目)：Archeology of the prehistory culture
3. 授業の目的と概要：本授業では、日本列島の先史時代である所謂「縄文時代」における先史文化（縄文文化）を理解することを目的とします。この縄文文化に関する考古学研究は、これまで土器や石器等の遺物が主要な対象となり、研究が進められてきました。しかし、縄文文化を理解するためには多種多様な側面から研究する必要があります。例えば、動植物遺存体の研究からは食生活や周囲の環境、竪穴住居跡や墓などの諸施設の研究からは居住形態や社会構造などの縄文文化の一端を明らかにすることができます。そのほかには、考古学に限らず自然環境に関する研究などの他分野の様々な研究も縄文文化を理解する上では重要です。本授業では、このような縄文文化に関する多種多様な研究の歴史とその方法を学び、これまでの研究により構築されてきた縄文文化観を理解することを当初の目的とします。また、本授業では北米北西海岸部における先史文化に関するこれまでの研究を一事例とし、縄文文化の相対的な位置を理解することにより、比較文化的視点を学ぶことを最終的な目的とします。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The purpose of this class is to understand the prehistoric culture (“Jomon culture”) of the Japanese archipelago during the so-called “Jomon period”. Archaeological research on the Jomon culture has so far focused on pottery, stone tools, and other artifacts. However, in order to understand the Jomon culture, it is necessary to study it from many different aspects. For example, studies of plant and animal remains can reveal aspects of the Jomon culture, such as dietary habits and the surrounding environment, and studies of pit dwellings and graves, and other facilities can reveal residential patterns and social structures. In addition to archaeology, various other fields of research, such as those related to the natural environment, are also important in understanding the Jomon culture. The initial purpose of this class is to learn about the history and methods of these various studies of the Jomon culture, and to understand the views of the Jomon culture that have been developed through research to date. The final objective of this class is to learn about the relative position of Jomon culture from the perspective of comparative culture, using the research on prehistoric culture on the northwest coast of North America as a case study.
5. 学習の到達目標：(1) 縄文文化に関するこれまでの研究の歴史を理解する。(2) 縄文文化研究における多種多様な視点や研究方法を理解する。(3) 縄文文化にかぎらず広く先史文化一般を理解するための基礎を学ぶ。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) Understand the history of research on Jomon culture to date. (2) Understand the various perspectives and research methods used in the study of Jomon culture. (3) Learn the fundamentals for understanding not only Jomon culture but also prehistoric culture in general
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1 回目：本授業の授業の目的と到達目標について説明する。そのほか、論文の読み方等について解説する。
 - 2・3 回目：縄文文化の研究手法。基本的な研究方法に関して解説する。最も基礎的なものには縄文土器の型式学的方法等の基礎的な研究方法について概観する。
 - 4～7 回目：縄文時代研究史について解説する。第2次世界大戦前後における縄文文化研究、1980年代からの新発見による縄文時代研究の進展、近年の新たな展開の3段階に分けて、それぞれの時代の研究内容を解説し、研究の視点と方法の変化について理解する。
 - 8 回目：「縄文時代」という枠組みについて解説する。「縄文時代」という時代設定・概念が果たして適切なものか、研究史に関する講義のまとめとして説明する。
 - 9～14 回目：縄文時代を成立期（草創期・早期）・展開期（前期・中期）・転換期（後期・晩期）の3期に区分して、それぞれの時期に関して2回ずつ、各時期の土器型式や各種遺物等の物質文化、あるいは生業活動を含めた居住形態に関する研究について説明する。
 - 15 回目：縄文文化と北米北西海岸部先史文化における生業活動の差異について、北米北西海岸部における貝塚の調査事例と日本の事例と比較しながら説明する。その上で、講義のまとめとして、両文化の比較を行い、今後の研究の方向性について解説する。
8. 成績評価方法：

(○) レポート [60%]・ (○) 出席 [40%]
9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。参考書は講義中に随時提示する。
10. 授業時間外学習：講義内でレポート内容に応じた問題を設定するので、時間外に講義内に提示した参考書などで調べること。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

オフィスアワー：水曜日 16:15～17:15（片平キャンパス・埋蔵文化財調査室）

メールアドレス tomonori.kanno.d4@tohoku.ac.jp

科目名：考古学特論Ⅳ／ Archaeology(Advanced Lecture)Ⅳ

曜日・講時：後期集中 その他 連講

セメスター：2 学期集中 単位数：2

担当教員：中沢 祐一

コード：LM98814, 科目ナンバリング：LJS-HIS613J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：狩猟採集社会の考古学

2. Course Title (授業題目)：Archaeology of hunter-gatherer societies

3. 授業の目的と概要：わたしたちの食卓は米、芋、パン、チーズ、ハムなどの農耕・牧畜によって得られた資源が中心であるが、人類は長らく、哺乳動物、魚介、ナッツなどを狩猟採集によって獲得してきた歴史がある。この狩猟採集社会は、生活様式も単純で停滞していたと思われがちだが、実際には地域的にも時間的にも多様性がある。とくに過去の考古学的証拠は豊富であり、現存する民族誌からの単純なアナロジーだけでは理解できない多様性をもつ。

本講義では、考古学が対象とする無文字であった過去の狩猟採集社会について学ぶことを通じ、狩猟採集経済を基盤とする小規模な社会がなぜ長期にわたり維持できたのかという点を理解する。その上で、現代社会が抱える様々な課題とその解決策を考えることができるような視点を獲得することが期待される。受講者は、具体例を知りつつ、主要な論点（資源利用、移住、技術選択など）やそれを説明するための考古学的な理論や方法についても学ぶ。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：While our diet is mostly relying on agricultural and dairy products such as rice, potato, bread, cheese, and ham, humans have long history in hunting and gathering of natural resources including terrestrial and marine mammals, seafood, and nuts. Contrary to prejudice of primitive and poor lifeways, the hunter-gatherer societies show variability across space and through time, especially rich archaeological record provides variability not merely explained by ethnographic analogy.

The goal of present intensive lectures is that students reach a comprehensive understanding of the question as to why the small-scale hunter-gatherer societies could achieve to sustain for evolutionarily long time, through learning examples of past nonliterate hunter-gatherer societies that the archaeologists study. Students are expected to have prospect for giving solutions to various issues in modern world. Students also learn major topics of hunter-gatherer studies (e.g., resource use, migration, technological choice) and how archaeological methods and theory can address these topics.

5. 学習の到達目標：以下の点を知る。

(1) 狩猟採集社会の多様性、(2) 過去の狩猟採集社会に関する研究課題、(3) 現代へもつながる論点

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Study goals of students are as follows:

To understand (1) the variability in hunter-gatherer societies, (2) archaeology research issues of past hunter-gatherer societies, and (3) topics that are relevant to current social issues.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

講義スケジュールは、以下を予定しています。

- 1 導入：狩猟採集社会とは
- 2 現代の狩猟採集社会
- 3 人口
- 4 健康
- 5 食 (1) 栄養
- 6 食 (2) 陸上資源
- 7 食 (3) 水産資源
- 8 食 (4) 昆虫食
- 9 技術 (1) 食料獲得法
- 10 技術 (2) 調理・貯蔵
- 11 住居・衣類
- 12 移住
- 13 移動・定住
- 14 特論：スペインの事例
- 15 まとめ

8. 成績評価方法：

出席・授業参加：50%、レポート：50%

9. 教科書および参考書：

教科書は用いない。講義内に資料を配布し、関連する論文や本は適宜紹介する予定。

10. 授業時間外学習：レポートは講義に関連する範囲で、自らが関心をもつテーマや論点についてまとめる。調査課題と考察を明示すること。民族誌例や現代社会の問題（人口増加、戦争、リサイクル、宗教、格差社会など）との関連を探ってもよい。字数制限はないが、おおよそ 3000 字～10000（参考文献除く）が目安。締め切りは、12 月 25 日。期限までに添付ファイル（Word か pdf）で中沢（ynakazawa@med.hokudai.ac.jp）まで送付する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：

科目名：考古学研究演習Ⅰ / Archaeology (Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 金曜日 4 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：鹿又 喜隆

コード：LM15401, 科目ナンバリング：LJS-HIS622J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：考古学研究史

2. Course Title (授業題目) : Advanced Seminar of Archaeological Studies

3. 授業の目的と概要：日本考古学を中心に、明治時代以来の考古学研究の流れを整理し、受講学生が各自の研究方向を見出します。例えば、旧石器の編年と製作技術、縄文土器の型式学、縄文集落と社会、農耕社会の成立と発展、古墳文化の特徴、東北地方の城柵官衙遺跡、古代窯業生産と供給、中・近世考古学などの課題があり、受講者各自が具体的な課題を選んで、順次、発表を行います。詳細な文献目録の作成、研究史の画期となった主要業績の解題、基本的な考古学資料の内容理解、調査研究報告書の詳細な検討、そして相互の討論を通して、研究の現状についての認識を深めます。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : In this course, students will understand history of archaeological study in Japan since Meiji era and establish their own idea about archaeological study. In every class, students prepare their own presentation paper and discuss archaeological issues each other. For instance, issue concerns chronology and technology in Palaeolithic period, typology of Jomon pottery, settlement and society in Jomon period, emergence and development of cultivation, characteristics of Kohun culture, ancient fort sites in Tohoku region, ancient ceramic industry and society of Middle Ages and Modern time.

5. 学習の到達目標：(1) 日本考古学の研究史の流れを把握し、学史上の画期を整理して理解する。(2) 各自の研究テーマの現状と課題を理解できるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : Students understand (1) history and epoch of archaeological study in Japan, and (2) problems and the present condition according to their own theme.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目（考古学研究演習Ⅲ）では、オンライン授業（主としてリアルタイム型遠隔授業）です。

Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。このクラスコードは ube3hhv

です。Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

毎回、生徒が自分のテーマに沿った資料を用いて発表をおこない、最後にディスカッションをおこないます。講義の内容とスケジュールは以下の通りです。

1. 講義ガイダンス

2. 学生による研究発表と議論

3. 学生による研究発表と議論

4. 学生による研究発表と議論

5. 学生による研究発表と議論

6. 学生による研究発表と議論

7. 学生による研究発表と議論

8. 学生による研究発表と議論

9. 学生による研究発表と議論

10. 学生による研究発表と議論

11. 学生による研究発表と議論

12. 学生による研究発表と議論

13. 学生による研究発表と議論

14. 学生による研究発表と議論

15. 学生による研究発表と議論

8. 成績評価方法：

(○) リポート [30%]・(○) 出席 [30%]

(○) その他 (具体的には、発表と討論) [40%]

9. 教科書および参考書：

教室にて指示、プリントを配布。

10. 授業時間外学習：発表内容は、時間外に各自がまとめる。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

研究演習Ⅰ、Ⅱを通年で連続履修することが望ましい。

科目名：考古学研究演習Ⅱ／ Archaeology(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 金曜日 4 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：鹿又 喜隆

コード：LM25402, 科目ナンバリング：LJS-HIS623J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：考古学の方法と理論

2. Course Title (授業題目)：Advanced Seminar of Archaeological Method and Theory

3. 授業の目的と概要：考古学研究の歴史と現状について、各自の関心領域を中心にまとめて発表し、相互の討論を通じて理解を深める。各時代の研究における、型式学と技術、材質研究、編年と地域性、生産と流通、文化変化、環境と生業活動、社会と集団、葬制、集落論など、具体的に課題を選択し、詳細な文献目録を作成し、現在の問題点を的確に把握し、今後の各自の研究指針を追究する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Students are introduced to the method and theory of archaeological research through class presentation and discussion.

5. 学習の到達目標：(1) 日本考古学研究の現状について、学史の流れを踏まえて問題点を展望し、各自の研究テーマを具体的に追求できるようになる。(2) 近年その内容が非常に多岐にわたる考古学研究の、広がりや深まりを認識し、各自の研究方法を位置づけられるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The course requires in depth learning of archaeological research history and actual practice. Students who are not familiar with archaeological research are recommended to learn other introductory courses before signing up to this particular methodology class.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業の実施形態：オンラインで行います。クラスルームにアクセスし、詳細を確認して下さい。クラスコードは、uxahkum です。

1. 学生による研究発表①
2. 学生による研究発表②
3. 学生による研究発表③
4. 学生による研究発表④
5. 学生による研究発表⑤
6. 学生による研究発表⑥
7. 学生による研究発表⑦
8. 学生による研究発表⑧
9. 学生による研究発表⑨
10. 学生による研究発表⑩
11. 学生による研究発表⑪
12. 学生による研究発表⑫
13. 学生による研究発表⑬
14. 学生による研究発表⑭
15. 学生による研究発表⑮

8. 成績評価方法：

(○) リポート [30%]・(○) 出席 [30%]

(○) その他 (具体的には、発表と討論) [40%]

9. 教科書および参考書：

教室にて指示、プリントを配布。

10. 授業時間外学習：発表内容は時間外に各自がまとめる。

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：

研究演習Ⅰ、Ⅱを通年で連続履修することが望ましい。

科目名：考古学研究実習 I / Archaeology (Advanced Field Work) I

曜日・講時：前期 水曜日 3 講時、前期 水曜日 4 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：鹿又 喜隆

コード：LM13308, 科目ナンバリング：LJS-HIS626J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：考古学の調査と資料分析 (1)
2. Course Title (授業題目) : Research and Analysis of Archaeological Materials
3. 授業の目的と概要：発掘調査から、出土遺物の処理、資料整理と分析、図面製作、写真撮影、遺物の資料化、そして調査研究報告書の作成に至るまでの一連の作業を通して、考古学の高度な研究方法の実際を修得する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : This course provides opportunities to experience excavation, operation of archaeological materials, projected drawing of artifacts, layout of drawing, taking photographs for editing the excavation report. Students will obtain actual techniques and methods for archaeological study through this course.
5. 学習の到達目標：考古学資料の実証的研究法を修得し、研究報告書の作成方法を学ぶ。発掘調査実習を通して、調査の計画と実践を学習する。
6. Learning Goals(学修の到達目標) : Students learn methodology to make an excavation report for basic archaeological study. They also learn about planning and methods for archaeological fieldwork.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
この科目（考古学研究実習 I）は、対面講義です。
初回のみ Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。このクラスコードは hi7z2cn です。Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

授業計画

- 第 1 回：出土遺物の属性入力（観察と計測、入力と統計操作）①
- 第 2 回：出土遺物の属性入力（観察と計測、入力と統計操作）②
- 第 3 回：発掘調査実習①
- 第 4 回：発掘調査実習②
- 第 5 回：出土遺物の属性入力（観察と計測、入力と統計操作）③
- 第 6 回：調査資料・収蔵資料の取扱いとデータベース構築①
- 第 7 回：調査資料・収蔵資料の取扱いとデータベース構築②
- 第 8 回：遺物の実測と製図①
- 第 9 回：遺物の実測と製図②
- 第 10 回：遺物の実測と製図③
- 第 11 回：遺物の実測と製図④
- 第 12 回：遺物の実測と製図⑤
- 第 13 回：測定の基礎と機器の操作①
- 第 14 回：測定の基礎と機器の操作②
- 第 15 回：測定の基礎と機器の操作③

定期試験 有

8. 成績評価方法：
(○) リポート [30%]・(○) 出席 [40%]
(○) その他（具体的には、受講態度と発掘調査等への積極的な取り組み）「30%」
9. 教科書および参考書：
教室にて指示。
10. 授業時間外学習：夏季に発掘調査を実施する。講義内で課題が終わらない場合には、宿題となる。
11. 実務・実践的授業/Practical business
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：
研究実習 I・II を通年で連続履修することが望ましい。15 回の講義の順番は、発掘計画に応じて前後することがある。

科目名：考古学研究実習Ⅱ／ Archaeology(Advanced Field Work)Ⅱ

曜日・講時：後期 水曜日 3講時、後期 水曜日 4講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：鹿又 喜隆

コード：LM23308, 科目ナンバリング：LJS-HIS627J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：考古学の調査と資料分析（2）

2. Course Title (授業題目)：Analysis of Archaeological Materials

3. 授業の目的と概要：第1学期に引き続き、考古学研究室による発掘調査資料・収蔵資料に取り組み、実際の研究分析法を学ぶ。発掘調査実習を通して、調査の計画と実践を学習する。

実際の遺跡発掘調査による資料の整理と分析作業を通して、考古学における遺跡調査法、資料分析法の基礎を学ぶ。資料に対する観察眼を養い、遺跡・遺物の調査研究を進めていくために必要な実技を修得する。遺物の特徴に応じた写真撮影の方法を実習する。資料保存・修復の作業実習も行う。また通年において、発掘技術、測量作業、記録法などの実際を発掘調査現場において学ぶ。特に出席および毎回の受講態度を重視する。相当量の宿題あり。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course provides actual experiences of archaeological research. Archaeological records and excavated artifacts from the investigation by the Laboratory of Archaeology, Graduate School of Arts and Letters, Tohoku University are used in the class. The method of analysis and production of excavation reports are practiced during the class hours. A heavy load of homework (off class hour laboratory work) are expected. Good commands of the Japanese language are necessary especially during discussion and laboratory work.

5. 学習の到達目標：(1) 考古学資料の基礎的な分析法を理解できるようになる。(2) 共同研究の意義について、理解できるようになる。(3) 考古学資料の整理と分析を経験し、調査報告書作成の実際を行う。(4) 発掘調査実習を通して、調査方法の基礎を学ぶ。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Basic skills of archaeological work can be learned in this course through practice.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目ではClassromを使用して講義資料と講義情報を発信します。

クラスコードは dnx4d4a です。

Classroomにアクセスし、クラスコードを入力してください。

1. 発掘調査で出土した資料、図面、データ類の整理（1）。
2. 発掘調査で出土した資料、図面、データ類の整理（2）。
3. 遺物の観察・記録と図化（1）。
4. 遺物の観察・記録と図化（2）。
5. 遺物の観察・記録と図化（3）。
6. 遺物の観察・記録と図化（4）。
7. 製図・トレース・レイアウトの作成（1）。
8. 製図・トレース・レイアウトの作成（2）。
9. 製図・トレース・レイアウトの作成（3）。
10. 写真撮影（1）。
11. 写真撮影（2）。
12. 写真撮影（3）。
13. 保存処理に関する研修。
14. 発掘調査報告書の作成に関わる編集と文章作成（1）。
15. 発掘調査報告書の作成に関わる編集と文章作成（2）。

8. 成績評価方法：

(○) リポート [30%]・(○) 出席 [40%]

(○) その他（具体的には、受講態度と発掘調査等への積極的な取り組み） [30%]

9. 教科書および参考書：

教室にて指示。

10. 授業時間外学習：講義内で課題が終わらない場合には宿題となる。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

考古学研究実習 I・II を連続履修することが望ましい。発掘調査の出土量や作業の進捗に応じて、講義内容は前後します。